

～「学習者主体の授業」の提案～

私たちは今まで、「『主体的・対話的で深い学び』による授業改善」
「演習問題等の活用」「個別指導・補充指導の充実」という
学力向上の3本柱を立て、様々な施策を実施してきました。
その結果、諸学力調査における結果から、先生方や子供たちの努力により
数値として見えやすい学力はついてきたと考えています。

しかし、全国学習状況調査の結果や子供たちの授業の様子を見ると
受け身で、主体性が感じられず、先生の指示通り板書をノートに写しているだけの授業の様子も見てとれます。
子供たちが真に学ぶ喜びや楽しさを感じて、主体的に学習している姿が見られる授業は
どの程度あるのでしょうか？

なぜそのような状況になったかを振り返ると
私たち県教育委員会が、学力向上三本柱の中で一番大切にしていた
「『主体的・対話的で深い学び』による授業改善」に向けて
明確な方向性を打ち出していなかったこともその一因ではないかと考えています。

私たちは、子供たちは本来有能な学び手であると思っています。
子供たちが主体的に学べる機会の提供や、主体的に学ぶ働きかけを行うことで
どんどん主体的に、自分で「知識及び技能」を獲得し、
「思考力、判断力、表現力等」をどんどん働かせて
自分の夢や目標に向かってどんどん突き進んでいく力を身に付けるのではないか。
そんな力を身に付けた子供たちを、育むための大切な考え方が
「学習者主体」 であると考えています。

私たちは原点に立ち返り、改めて「『(学習者が)主体的・対話的に深く学ぶ』の授業」
の実現が重要であると考えています。

皆様も一緒に、学習者主体の授業を目指して、子供たちと同じように試行錯誤をしてみませんか。



子供たちは元来,どのような存在なのでしょう？

私たち教師は,授業において発問や指示が,子供たちに伝わっていないと感じたとき
さらに詳しく説明を加えようとすることはありませんか…？

しかし,説明を加えれば加えるほど,子供たちはどんどん受け身になっていきます。
そんな経験が,みなさんにもあるのではないのでしょうか。

私たち教師が「子供たちのために」と思って行ってきたことが,
実は,子供たちの主体性や可能性を奪っている可能性がある…。
本県では,こうした教師と子供たちの認識の“ずれ”を示唆する調査結果も出ています。

目の前の子供たちの環境は,コロナ禍前の3年前とも大きく変わっており,
こうした変化は,この先も加速度を増すとの指摘もあります。

GIGAスクール構想の実現により,一人一台端末が整備されました。
また,巷には無料で質の高いコンテンツ等が充実しつつあり,
子供たちは,工夫次第で,自分で知識や技能をどんどん獲得できる環境にあります。
また,一度獲得した知識や技能についても,時代の変化に伴い陳腐化していく可能性もあります。

私たちの授業も,こうした時代の変化に対応していく必要があるのではないのでしょうか？

こうした時代からこそ,私たちは,「子供たちは元来,有能な学び手である」という原点に立ち返り,
授業づくりを考え直す必要があると考えています。

【令和4年度全国学力・学習状況調査における学校質問紙と児童生徒質問紙より】
「解決に向けて自分で考え,自分からできていると思うか。」【主体的な学び】

数値を見ると,教師は主体的に取り組んでいると考えているが,児童生徒はそうした実感を持ち合わせていないことが分かる。

※データ数値は 令和4年度「全国学力学習状況調査の結果」から,項目毎に県の数値の値から全国の数値を引いた差

	小学校	中学校
学校	+7.1	-1.5
児童生徒	-2.7	-3.8

どのような子供を育てたいですか？



「ジリツした学習者」



どうなっているんだ？
もっとしらべたい。

私はこう思うけど、みんなはどう？何かいい方法ない？

(問題発見力)

- ・ 当事者意識をもって問いを見いだす子供

(自己調整力)

- ・ 学びの見通しを持ち、自ら学びの方法を選択・決定し、自らの学びを調整しながら実行できる子供

(協働する力・関係調整力)

- ・ 分からないところやできないところは、他者と協力し合い解決しようとする子供
- ・ 対話を通して対立やジレンマを乗り越えようとする子供

(省察力)

- ・ 分からなかった点やできなかった点を見直し、次に生かそうとする子供

(自尊心)

- ・ 自分の「伸び」を実感し、自分のよいところを認め、次の学習につなげる子供

(粘り強さ)

- ・ 問いに主体的に、粘り強く学び続けようとする子供

なぜ「ジリツした学習者」？

など...

「ジリツした学習者」でなければ、いつまでも誰かの指示がなければ動けず、その指示も正しいかどうかも判断できず、言われたことをそのまま行う。また、自分で主体的にものや考えを創り出したり、友達と協力して課題を解決する喜びが感じられないまま、ただ日々を過ごしていく。夢や目標を実現し、また、幸せな人生を送るためには、それでよいのでしょうか。

私たちは、子供達の「一人一人の多様な幸せ」の実現のためには、「ジリツした学習者」であることが必要ではないかと考えています。学習指導要領でも、「資質・能力ベース」の考え方が提示されています。授業改善に当たっては、まずはどのような子供を育てたいか、どのような力を付けたいかの議論から始めてみましょう。

※「ジリツ」をカタカナ表記にしているのは、どの漢字が妥当か議論をしているためです。皆様もぜひ議論してみてください！

これからの授業はどうあるべきでしょうか？

【今まで】

(イメージ)



授業

- ・ 同じ内容を同じ方法で、同じペースで進める授業
- ・ 教師の指示通りに進められる授業

子供の姿

- ・ 受け身で教師の指示を常に待つ姿
- ・ 指示や内容に疑問を感じず行う姿

教師の姿

- ・ 「目に見えやすい学力」に重点をおいた指導をする姿
- ・ 周りと同じように行うことを重視した姿

【これから】

(イメージ)



授業

- ・ 学習者それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業
- ・ 学習者が解決の方法を自分なりに選択・判断し行っていく授業
- ・ 学習者が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業

子供の姿

- ・ 意図をもって、主体的に課題に取り組む姿
- ・ 一人一人が自分の課題に取り組み、試行錯誤を繰り返す姿
- ・ 協働して、ものや考えを創り出す姿

教師の姿

- ・ 「目に見えにくい学力」も大切にする姿
- ・ 子供たちに委ねられるところは委ねる姿
- ・ 一人一人のよさに着目し、そのよさを伸ばそうとする姿

教師に求められる役割とはどのようなものでしょうか？



授業を山登りで例えてみると、山頂を目指すルートは様々有ります。どのルートをどれくらいの時間でどのように登るのかは、人それぞれ違います。その方法や時間、コース、準備する物全てを教師が一律に示してしまった時に、子供たちはどのように感じるのでしょうか…？

子供を信じて、山の登り方をまずは子供たちに委ね、子供たちが求めたタイミングで必要な内容を提示できるように準備しておく。そのように支援するのが「**ファシリテーター的な役割**」であり、こうした関わりによって、子供たちは主体的に山登りに取り組むようになっていくと考えています。

有能なファシリテーターは例えば…

①準備万端！

- 本単元で身に付けなければならない資質・能力を子供たちと共有する。
- 学びに関わる多くの決定を学習者に委ねられるように、単元構成や内容を工夫・開発する。
- 試行錯誤できる場や時間を設定し、必要となる資料や教具などを準備する。
- 子供たちにとって、課題解決したくなる問題や内容等を提示する。

②しっかり伴走！

- 子供のつぶやきや反応から、何にこだわっているか、どこにつまずいているかをしっかり見取り、認める。
- 子供に合わせて、立ち止まって一緒に考えたり、新たな視点を与えたりする。
- 振り返りを行わせ、子供の伸びや成長をしっかり価値付け、称賛する。

【前提として】 子供の学び手としての有能さを信じ、委ねる。

授業改善を行うためにはどのような取組が重要でしょうか？

子供観や授業観等, 日常的な語り合いが重要です!

「子供たちの頭の中をぐるぐる働かせっぱなしにするためには、どうすべきか。」

その問いに対して、唯一無二の方法はありません。

子供たち一人一人が違うように、先生方一人一人も違います。得意な内容や方法もそれぞれ違います。だからこそ、これといった型や方法があるわけではないのです。

ただ、子供たちの頭の中をぐるぐる働かせっぱなしにする授業を追い求め、授業実践を繰り返していくしかありません。そんな授業実践を行うための土台となる考え方が、授業観や子供観といった「観」だと思っています。

先生方はそれぞれ「観」をお持ちです。その「観」は時代と共にアップデートしていく必要があります。子供は、元来どのような存在なのか。どのような授業が、今、求められているのか。みんなで定期的にこれらの観の交流をして語り合うことにより、観のアップデートは可能です。社会が加速度的に変化していく中では、社会が求める授業の姿も変化するため、語り合うことを通して、観のアップデートを行うことはとても重要になってきます。



学習者主体の授業に向けて一緒に取り組んでいきませんか？

「学習者主体の授業」では、こんな子供たちの言葉が聞こえてきます！！

だれか教えて、いっしょにやろう。私がこの部分調べてみるね。

こんな方法でやると速くて簡単かもね。これも使えそうだよ。

ああ、なるほど、そういうことか。わかった。わかった。

これって、どういうこと？
どうしたらいいの？



だったら、次、こんなことができそうだよ。次、これをやってみたい。

教師の役割は

- ・これまで以上に、子供たちが主体的に学べるような入念な準備や手立てを講じる
- ・授業では、教師の指示で学ぶのではなく、学びに関わる多くの決定を子供に委ね、子供たちに選択・判断・決定させ、実行させる場面をつくる
- ・一人一人の子供を丁寧に見取り、機会を捉えた適切な指導を行う

できるところから。 ↓ 少しずつ。

「学習者主体の授業」の実践を！

新たな学びへのメッセージ

全ての子供たちの可能性を引き出す「学習者主体の授業」へ

今、授業で先生の話の聞いている子供たちは本当に学んでいるのでしょうか。

学ぶとはどういうことか理解しているのでしょうか。

そもそも「学び」とは、一体どういうことなのでしょう。

先生の言われたとおり、黒板の文字を“ただ”ノートに写していれば怒られず

みんなと同じことを同じように行いさえすれば、ほめられ、

そのこと自体に意味を見いだせず、じっと我慢している。

そんな子供がいるのではないのでしょうか。

「人生100年時代」と言われる昨今

高校や大学を出て社会人になり、一つの会社で定年まで過ごし、その後は余生を楽しく暮らす、

そんな時代は遠い昔のことになりつつあります。

時代の流れるスピードが速く予測困難な社会において

その時、その場所で多様な価値観の人々と協働し、

最適解や納得解を生み出していく力を身に付けなければなりません。

子供たちの未来は今、まさに創られているところです。

これからの社会を生き抜いていく子供たちの学びを支えるためにはどうしたらよいか。

今こそ、みんなで大いに議論し、語り合い、
そもそも論から「学び」を見つめ直す時なのではないのでしょうか？



実践例①「名古屋市立山吹小学校」

学級内自由進度学習, 1・2年は1教科, 3年生以上で複数教科

学期に1回10時間程度の計画を立てて実施しています。

③子供たちが振り返りが行いやすいように、ルーブリック(評価規準)を示します。

3年4組時間わり(2/20~2/24)名(24)

月(20)	火(21)	水(22)	木(23)	金(24)
学年集会	体育	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	ミニYST
学活	体育	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	書写毛筆
音楽	音楽	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	習字用具の片付け
算数	算数	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	体育
社会	社会	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	外国語
委員会	委員会	サッカー対話	天皇誕生日でお休み	今週の振り返り

YST 自分で計画をたてよう。たん元課題表を見て何をやるか、かくにんしよう。
【今週の課題】計画がむずかしいときは、やったことを書こう。

国語★ 1時間 自分で決めた課題	作文を組み合う 書きで書く1字	社会★ 3時間 理科 0時間	まとめよう 自分で決めた課題
自分で決めた課題	自分で決めた課題	自分で決めた課題	自分で決めた課題

ふり振り返り

算数 たん元かだい表 組()

3年(たん元名 2けたをかけるかけ算の筆算) 目やす時間【7時間】

1けたをかけるかけ算の計算のしかたをもとにして、2けたをかけるかけ算の筆算のしかたを考え、計算したり筆算のしかたを説明したりすることができる。
※問題は式や答え、筆算をノートに書いて取り組みます。

時間	学習目しよう	かだい		チャレンジ		月日	◎○△
		教科書	アイテム	教科書	アイテム		
0	じゅんびテスト						
①	【インストラクション】学習の見直しをもとう 何十をかけるかけ算のしかたを考えよう。	P86 P87					
2 3 4	・(2けた)×(2けた)の筆算のしかたを考え、計算できるようにしよう。	P88 P89 P90	P40 P41 P43	もっと練習 P129 キョビナ	P44		
5	・(3けた)×(2けた)の筆算のしかたを考え、計算できるようにしよう。 ①自作しても、教科書の問題に取り組んでもどちらでもOK	P91	P42 P43 P44	キョビナ	P45 P46 P47		
6	・学習のまとめをしよう	P92 P93	「かけ算の筆算のしくみ」	キョビナ	P48 P49 P50 P51		
7	・まとめのテスト						

①かだいは、かならずやろう。 ②チャレンジは、やりたい人がやろう。家庭学習でやってもいいよ。
③やったら、色をぬったり、○をつけたりして、自分でチェックしよう。
④できたら日ごとに◎○△を入れよう。

★ 学び方チェック 当てはまるものすべて○やしをつけよう。
() 分かるまで一人で取り組んだ。
() 一人で分からないことは、友だちや先生に自分から聞いた。
() 友だちに聞かれたら、分かるまでいっしょに学ぶことができた。

進捗表

90%以上	80%以上	50%以下
-------	-------	-------

①前の週の金曜日に、社会と算数をいつ行うかを決め、計画を立てる。

②子供たちが見通しをもって学習できるように、単元のおおまかな計画を示します。

角柱	3	2	1
ノート	2+ 大事なところに色をつけてきれいにまとめた	めあて・まとめをしっかりと書いた!!	...
見取図 展開図	2+ どんな角柱でも完ぺきに描ける!!	定規・コンパスを使ってきれいに描いている!!	ガタガタ 長さが20
ゴール	2+ 組み立ててもズレなし!!	ズレもなく展開図バッチリ!!	ズレなし 20

①今週の計画で子供たちが自由に進められる9時間の枠, ②算数の単元のおおまかな計画, ③振り返りで使うルーブリック, 全て事前に教師が準備して、授業に臨んでいます。

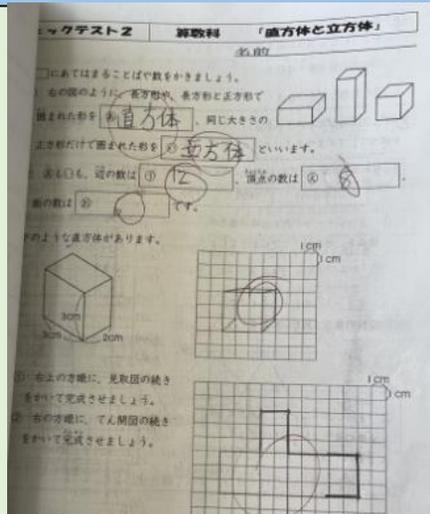
実践例②「愛知県東浦町立緒川小学校」

3学級をくずし、国語、算数を自由進捗で進む授業を展開

学期に1回15~18時間程度



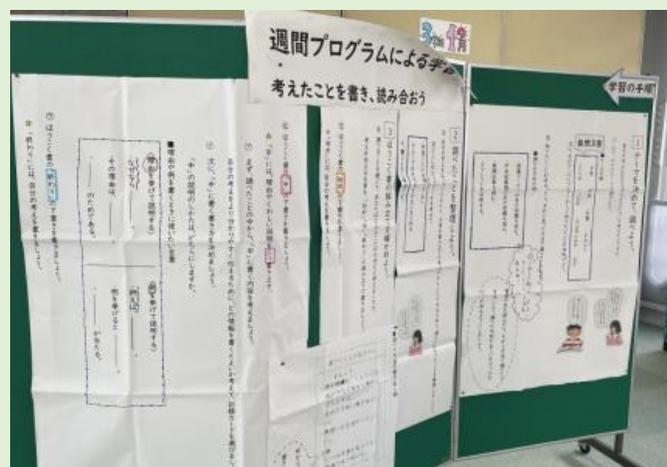
①算数0課題。子供たちの関心・意欲を高めます。



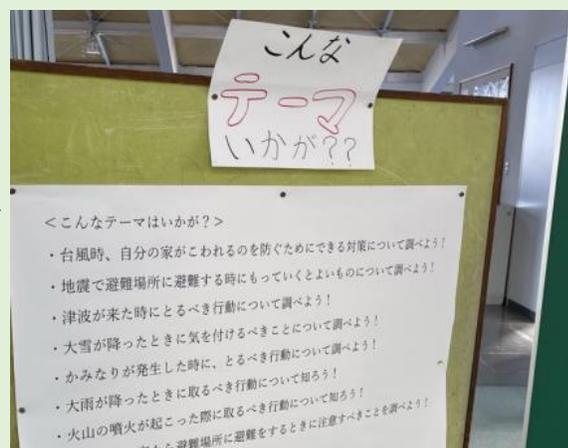
②算数の学習材(プリント)を準備し、自分で答え合わせまでして進めます。



③展開図を自分で描いて、直方体や立方体を作り、街のジオラマを作る発展課題です。



①報告書を書く国語学習プログラム(手順)を分かりやすく提示。



②報告書を書くための例示(子供たちがテーマを決めて書き始める。)



③書いた報告書を読み合い、付箋で意見を交流している。

子供の学びを支えてるのは、教師の入念な準備です。